

詳しくは公式サイトへ



卓越大学院プログラムのご案内

アジアユーラシア研究×Digital Humanities

1. 概要

国内外の大学・研究機関・民間企業等と連携した世界最高水準の博士課程プログラムです。グローバル課題の解決を担うため、アジアユーラシア研究の専門知識とデジタル技術を習得した人材の育成を目的としています。プログラム修了者には、研究職のほか、地域や国際機関などでの活躍も期待されています。

2. 履修の利点

- ・経済支援：リサーチ・アシスタント（RA）、ノートパソコン無償貸与、調査等旅費
- ・研究支援：連携5大学の教員による論文執筆、研究費申請、学会発表の指導
- ・就職支援：国内外の公的機関や企業でのインターンシップ、共同研究

履修生の声

AI やデータサイエンスを駆使した新しい人文学研究を学ぶことができます。海外調査や研究会参加の際に旅費の支援がありました。研究発表の機会も多く、連携大学の学生と切磋琢磨しています。

3. 博士前期課程での必要単位

- ・アジアユーラシア研究と Digital Humanities に関連する社文研の科目 6 単位
- ・千葉大学のオンデマンド科目 2 単位
- ・合同コロキウム（連携大学の学生・教員との研究合宿）
→2022 年度千葉大学、2023 年度熊本大学、2024 年度岡山大学、2025 年度長崎大学で実施
- ・フィールドリサーチ →岡山県立美術館、学術野営（吹屋、北海道夕張郡）など

4. 応募について

- ・対象：「日本・アジア文化専攻」及び「人間社会文化専攻」の学生
- ・採用予定人数：4 名
- ・期間：2026 年 10 月 1 日(木)～10 月 30 日(金)
- ・方法：主指導教員の許可（押印）を得た出願書類を社会文化科学研究科大学院教務学生担当へ提出
- ・問い合わせ先：教務学生担当（ggg7322@adm.okayama-u.ac.jp）
社会文化科学学域准教授 石田友梨（@）

<Q&A>

Q:Digital Humanities とは何ですか？

A: コンピュータを活用した人文学研究のことです。1940 年代後半にトマス・アキナスの著作の索引を電子化することから始まったとされ、言葉としては 2004 年以降に広がりました。近年では AI 技術を活用し、画像から自動でテキストを電子化する OCR 技術、テキストの断片から全体像を予測する技術などの研究も行われています。大量のテキストから傾向を分析するテキストマイニング、人間関係や地理的特性の可視化、文化財や調査記録のデジタル化、VR を利用した教材の開発など、人文学の可能性を広げる学問です。

Q:プログラミングなどの知識や技術は必要ですか？

A: 不要です。ひとりひとりの研究課題に応じて、必要な知識や技術を基礎から指導します。プログラミングの知識がなくても、AI を利用すればプログラミングができる時代になりました。しかし、資料の電子化や分析には人文学の知見が必要です。AI の仕組みや AI が社会に及ぼす影響について、関心や理解をもちつつ、それぞれの専門を極める必要があります。

Q:連携大学はどこですか？

A: 千葉大学、長崎大学、熊本大学です。また連携研究機関として国立歴史民俗博物館があります。これらの大学・研究機関の教員に研究の指導を受けることができます。また、各大学の卓越大学院プログラム履修生と合同コロキウム、研究会、インターンシップ、オンラインプラットフォームで交流をすることができます。

先輩からのメッセージ 迷っているなら、取りあえず参加してみて！！

卓越大学院プログラムに参加したのは一年前。まだまだ新参者の私が一番感じたのは、まちがいなく 「自分の研究の世界が広がった！」 ということです。

1. 普段出会えない人と話せる
2. 研究を披露してフィードバックがもらえる
3. 出張・海外経験も！
4. 授業も多彩で面白い

一言でいうと、卓越大学院プログラムは 「研究の幅を広げたい」「いろんな人と出会いたい」「珍しい体験をしてみたい」 という人にぴったりです。